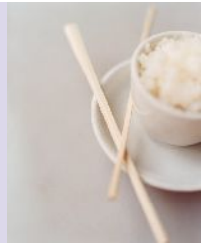


遊佐町共同開発米の米日記



いよいよ平成21年度遊YOU米がスタートします。皆様もご存知だとは思いますが、遊佐町共同開発米部会では種子消毒は温湯消毒のみになります。

60℃のお湯に10分浸し出来上がったらすぐに冷水に漬けます。この時袋の種子が均一な温度になる様水の中で丁寧に動かします。

温湯消毒の作業者はこれを繰り返す訳で(一袋約5kg)見た目以上に大変な作業になります。



温湯消毒が終わった種子を水に漬ける浸種が始まりました。種の目的は発芽させる為に必要な水分を吸収させ発芽を均一になるようにします。

水温が15度以上にならにように管理し、種子袋の上下反転や水交換は欠かせません。

品種にもよりますが、浸種積算温度は100℃~140℃で、例えば一日平均水温が10℃で10日間だと10×10で100℃の積算温度となります。



3月下旬の遊佐町の状況は田んぼに積もった雪も溶け日に日に暖かくなり4月から本格的に始まる本田作業をまっばかりです。

去年は数十年に一度の豊作年で春先に田んぼが渴き乾土効果のあった年でした。圃場の土や特性を掴み肥料をpushさえるなど工夫しています。

牛肥・豚肥・トンポストのいずれかを使用し、開発米部会では何年もかけて田んぼの土づくりをしています。

